

ワークショップ：ハンド・スプリントを作る！

漠然とした表現をするとハンド・スプリントはOTの可能性を拓けるものです。

ハンド・スプリントは、治療プログラムに組み込み効果を得ることはもちろんですが、手の機能障害に対して損なわれている機能を補完することで手の使用機会を増やすきっかけとすることができます。また、単純に手を良い肢位に保ったり、保護的に安全を確保したり、疼痛などのない快適な肢位を保持したりするなど、二次的障害の予防や安全対策、安静の確保など本格的な治療の前後を繋ぐ役割を果たすこともできます。

スプリントが“苦手”という声を時々耳にします。その苦手意識はどこから来るのでしょうか？なにが“苦手”と言わせるのでしょうか？

私自身は20年あまり、学校での義肢装具学演習やスプリントの現職者講習の講師をしてきました。“苦手”の理由として多くの方が挙げるのは、“上手に作れない”＝“苦手”というのが大多数であろうと推測しています。

「出来栄の良さ＝上手」という観点では、手先の器用さや美的感覚といった部分は個人の能力や個性に委ねられるかもしれません。たしかに、見栄えがよく、機能的であることは理想だと思いますが、その両方を実現するには多くの経験を要します。

それでも、臨床は日々動き続け、患者の状態は変化していきます。患者の状態や治療方針に合わせた作製方法を選ぶことができ、確実に手順を踏めれば決して残念なスプリントにはならないと思います。

臨床で患者に効果的なスプリントを導入するためには、活用するには「原理を理解する」こと、「原則的な適応を理解する」こと、そして「的確なデザインで作製できる」ことなどが挙げられます。しかし、すべてのことを限られた短い時間でお示しすることはできません。

そこで、このワークショップでは、「的確なデザインで作製できる」ことを念頭において、その入り口としてハンド・スプリントの「作り方：手順やポイント」を実際にお見せします。